修士論文（要旨）
2010 年 1 月

日英語における親族名称とその母語話者が持つ家族観

指導　小池一夫　教授

国際学研究科
言語教育専攻
208J4002
五十嵐あゆ美

目次

序論
ⅰ研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
ⅱ研究の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
ⅲ本論文における家族観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

1. 日英語親族名称とその分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.1. 日本語の親族名称の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.1.1. 血族・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.1.2. 姻族・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
1.1.3. 親族の定義づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
1.2.英語の親族名称の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
1.2.1. 血族・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
1.2.2. 姻族 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
1.2.3. 本来語と借用語の関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
1.2.4. 親族の定義づけ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

2. 日英語親族名称の構成要素・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
2.1. 祖父母の世代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
2.2. 親の世代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
2.3. 自分の世代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
2.4. 子の世代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
2.5. 孫の世代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
2.6. タイ語の特徴から見る日英語の親族名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

3. 家族内における人間関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
3.1. タテの社会とヨコの社会における日英の家族・・・・・・・・・・・・・・・・・30
3.2. 家族内における親子と夫婦の関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

結論
ⅰ日英語の親族・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
ⅱ親族名称の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
ⅲ日英の家族観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
ⅳ反省と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

後注・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
省略記号・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
謝辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

要旨

日本語と英語には多くの対応する語が存在するが、それらは必ずしも同一の指示対象を表しているとは限らない。それは、言語とそれが用いられる社会との密接な関係があるからである。本論文では、そこに生じる日英語間の相違を「親族名称」に焦点を当て、言語的ないし社会的な視点から日本と英語圏の家族の在り方について研究を行う。「家族」というものは、人間が存在する以上、言語や民族を問わず、どこにでも必ず存在し世界に共通して見られる人間の集団である。しかし、それぞれの言語や、それが使われる社会の仕組みによって、家族を捉える「家族観」に違いが生じる。

社会人類学者の中根(1997)は、日本と欧米の社会をタテとヨコの社会として分別している。これは、年功序列を重んじる日本をタテの社会、能力主義である欧米をヨコの社会と呼んだものである。さらに、夏目漱石の孫娘であり、比較文学研究者の松岡（1989, p.19）は「アメリカと日本の家庭を比べる時、最も大きな違いは、アメリカの夫婦単位に対して日本の親子単位という点が挙げられよう」と記述している。そこで、中根(1997)と松岡(1989)の意見を統合して「家族」の在り方を考察すると、日本のタテ社会は親子を中心とした構成であり、英語圏のヨコ社会は夫婦を中心として構成されるものであると言える。このことから、誰もが持っている家族に対する「家族観」が日本と英語圏では異なると考えることができ、異なった社会に生きる人々同士が意思の疎通をはかろうとする場合、相互理解に欠ける社会の違いによる摩擦が生じてしまうこともあると考えられる。日本と英語圏におけるそれぞれの「家族」がどのような「家族観」のもとで存在するのだろうか。

さらに言語的視点で見た家族という語が持つ共通点と相違点、そして親族名称一つ一つの構成から考えられるその言語が使われる環境における人間の価値観について考察する。言語と環境によって異なる意味と様式を持つ家族について検討し、今後の日本と英語圏の人々の相互理解または家族の有意義な在り方に役立てたい。

本論文は、第一章と第二章では言語的視点から親族名称を考察し、第三章では社会的視点から日本と英語圏で家族がどのように存在しているかについて様々な視点から研究を行う構成となっている。

第一章では、日本と英語圏の親族名称が親族の中でどのように分類されているか、また親族の意味を持つ複数の語について考察する。その中で家族という語がどのような言語的意味を持っているのかを明らかにしながら親族名称の全体像に見られる特徴を考察していく。親族呼称にも触れ、人々がどのように家族の構成員を呼称するかについても考える。

第二章では、世代によって分けられた日本語と英語の親族名称の構成をタイ語という言語を加えることで客観的に考察する。日本語にあって英語にない名称や、英語では一まとめにして考えられる日本語の名称など、その名称が作られる要因となった社会的な価値観についても検当する。

第三章では、言語的視点からの考察をした第一章と第二章で関連性が出てきた社会的要素について、様々な視点から家族を検討し、人々が家族をどのように捉えているかという観点から日英語間での「家族観」について考察する。それぞれの社会について論じる際に、家族におけるタテの社会とヨコの社会、そして親子中心と夫婦中心の社会に着眼して考えてみる。

参考文献

赤坂真人．2006.『基礎社会学』東京：ふくろう出版.

坂東眞理子．1998.『図説　世界の中の日本の暮らし』（新訂版）東京：大蔵省印刷局.

Firth, Raymond, Jane Hubert and Anthony Forge. 1998. *Families and Their Relatives*. London: Routledge.

原ひろこ．1986.『家族の文化誌』東京：弘文堂.

Hudson, Richard. 1984. *Invitation to Linguistics*. Oxford: Martin Robertson and Company.

井形慶子．2007.『イギリスの夫婦はなぜ手をつなぐのか』東京：新潮社.

井出生．1986.『アメリカの家族 1960-1990』東京：多賀出版.

上子武次，増田光吉．1981.『日本人の家族関係』（有斐閣選書）東京：有斐閣.

河合隼雄．1996.『家族関係を考える』東京：講談社.

風間喜代三．1984.『印欧語の親族名称の研究』東京：岩波書店.

小池一夫．1995.「親族名称に見る英語語彙の意識的距離」『桜美林英語英米文学研究』第35 輯, pp. 65-84.

厚生省人口問題研究所．1996.『現代日本の家族に関する意識と調査－第一回全国家庭動向調査(1993 年)』　東京：財団法人厚生総計協会.

松岡陽子マックレイン．1989.『アメリカの常識日本の常識』東京：読売新聞社.

南博．1987.『日本人の心理』岩波新書：東京.

Levi-Strauss, Claude（著）荒川幾男（訳）．1972.『構造人類学』東京：みすず書房.

中根千枝．1977.『家族を中心とした人間関係』東京：講談社.

中根千枝．1997.『タテ社会の人間関係』東京：講談社.

大村敦志．2004.『家族法』(第二版　補訂版)東京：有斐閣.

小此木啓吾．1999.『「家族学」ことはじめ』東京：講談社.

Pinker, Steaven. 1997. *How the Mind Works*. New York: Norton.
出版.

総務庁青少年対策本部編．1996.『子どもと家族に関する国際比較調査報告書』東京：大蔵省印刷局.

鈴木孝夫．1975.『ことばと社会』東京：中央公論社.

鈴木孝夫．1978.『ことばと文化』東京：岩波書店.

鈴木孝夫．1999.『ことばと文化　私の言語学』東京：岩波書店.

Todd, Emmanuel（著），荻野文隆（訳）．2008.『世界の多様性　家族構造と近代性』東京：藤原書店.

湯沢雍彦．2004.『データで読む家族問題』東京：日本放送出版協会.

渡辺洋三．1994.『日本社会と家族』東京：労働旬報社.

ウィリアムス飯久保蔦枝．2003.『「里親制度について」東京家政大学院大学紀要』（第 43 号）, pp.77-83.

Website

高杉親知 2004『親族名称の比較』http://www.sf.airnet.ne.jp/ts/language/kinship.html.